

アルドース還元酵素阻害剤

日本薬局方 エパルレストアット錠

** **エパルレストアット錠50mg「TCK」**



EPALRESTAT

処方箋医薬品：注意－医師等の処方箋により使用すること

貯法：室温保存




使用期限：外装に表示

** 承認番号	30200AMX00716000
** 薬価収載	2021年6月
** 販売開始	2005年7月

**【 組成・性状 】

エパルレストアット錠50mg「TCK」は1錠中にエパルレストアット(日局)を50mg含有する。

添加物として、D-マンニトール、ヒドロキシプロピルセルロース、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、二酸化ケイ素、ステアリン酸Mg、ヒプロメロース、プロピレングリコール、酸化チタン、カルナウバロウを含有する。

外形			色調剤形	識別コード
直径(mm)	厚さ(mm)	重量(mg)		
 6.7	 3.7	 120	白色フィルムコーティング錠	Tu 301

【 効能又は効果 】

糖尿病性末梢神経障害に伴う自覚症状(しびれ感、疼痛)、振動覚異常、心拍変動異常の改善(糖化ヘモグロビンが高値を示す場合)

【 用法及び用量 】

通常、成人にはエパルレストアットとして1回50mgを1日3回毎食前に経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

【 使用上の注意 】

1. 重要な基本的注意

- (1) 糖尿病治療の基本である食事療法、運動療法、経口血糖降下剤、インスリン等の治療を行った上でなお、糖化ヘモグロビンが高値を示す患者に対して適用を考慮する。
- * (2) 本剤の投与の対象となる患者の糖化ヘモグロビンは、HbA1c(NGSP値)7.0%以上(JDS値6.6%以上)を目安とする。
- (3) 不可逆的な器質的な変化を伴う糖尿病性末梢神経障害の患者では効果が確立されていない。
- (4) 投与中は経過を十分に観察し、12週間投与して効果が認められない場合には他の適切な治療に切り換えること。

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用(頻度不明)

- 1) 血小板減少：血小板減少があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には、投与を中止すること。
- 2) 劇症肝炎、肝機能障害、黄疸、肝不全：劇症肝炎、著しいAST(GOT)・ALT(GPT)の上昇等を伴う肝機能障害、黄疸、肝不全があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような場合には投与を中止し適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	頻度不明
過敏症 ^{注)}	発疹、痒疹、紅斑、水疱等
肝臓	AST(GOT)・ALT(GPT)・γ-GTPの上昇、ビリルビン上昇等
消化器	腹痛、嘔気、嘔吐、下痢、食欲不振、腹部膨満感、便秘、胸やけ
腎臓	BUN上昇、クレアチニン上昇、尿量減少、頻尿
血液	貧血、白血球減少
その他	倦怠感、めまい、頭痛、こわばり、脱力感、四肢疼痛、胸部不快感、動悸、浮腫、ほてり、しびれ、脱毛、紫斑、CK(CPK)上昇、発熱

注) 発現した場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

3. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]
- (2) 本剤投与中は授乳を避けさせること。[動物実験(ラット)で乳汁中へ移行することが報告されている。]

4. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。

5. 臨床検査結果に及ぼす影響

本剤の投与により尿は黄褐色又は赤色を呈するため、ビリルビン及びケトン体の尿定性試験に影響することがある。

6. 適用上の注意

薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。)

7. その他の注意

本剤の投与により、黄褐色又は赤色の着色尿があらわれることがある。[本剤及び代謝物の影響による。]

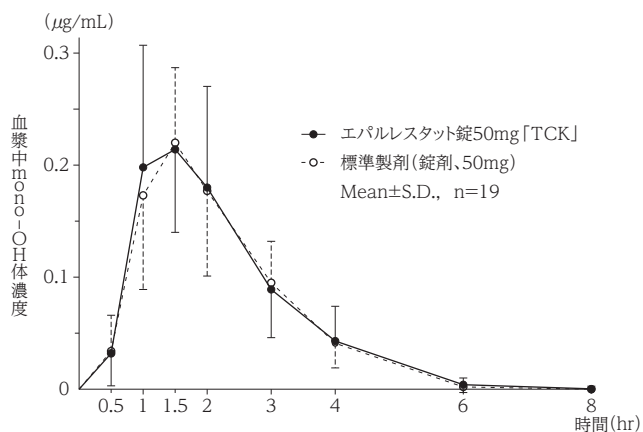
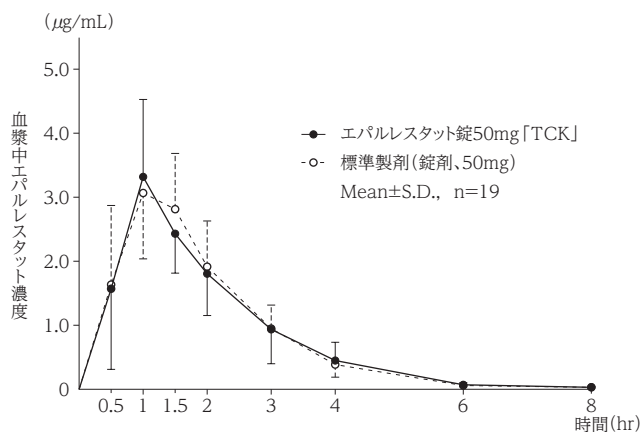
**【 薬物動態 】

生物学的同源性試験

エパルレストアット錠50mg「TCK」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ1錠(エパルレストアット50mg)健康成人男子に絶食単回経口投与して血漿中未変化体濃度及び主代謝物(mono-OH体)濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、いずれもlog(0.80)～log(1.25)の範囲内であり、両剤の生物学的同源性が確認された。¹⁾

		判定パラメータ		参考パラメータ	
		AUC _{0→8hr} ($\mu\text{g}\cdot\text{hr/mL}$)	Cmax($\mu\text{g/mL}$)	Tmax(hr)	T _{1/2} (hr)
エパルレストアット錠50mg「TCK」	未変化体	6.80±1.62	3.42±1.07	1.11±0.21	1.15±0.18
	代謝物	0.52±0.16	0.25±0.09	1.47±0.42	1.00±0.39
標準製剤(錠剤、50mg)	未変化体	6.87±1.37	3.49±0.91	1.16±0.29	1.15±0.16
	代謝物	0.51±0.14	0.23±0.08	1.45±0.33	0.99±0.47

(Mean±S.D.,n=19)



血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

溶出挙動

エパルレスタット錠 50mg 「TCK」 は、日本薬局方医薬品各条に定められた溶出規格に適合していることが確認されている。²⁾

【 有効成分に関する理化学的知見 】

一般名：エパルレスタット (Epalrestat)

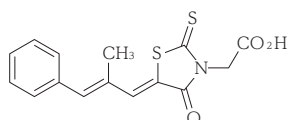
化学名：2-((5Z)-5-[(2E)-2-Methyl-3-phenylprop-2-en-1-ylidene]-4-oxo-2-thioxothiazolidin-3-yl)acetic acid

分子式：C₁₅H₁₃NO₃S₂

分子量：319.40

融点：222 ~ 227°C

構造式：



性状：黄色～だいたい色の結晶又は結晶性の粉末である。
N,N-ジメチルホルムアミドにやや溶けやすく、メタノール又はエタノール (99.5) に溶けにくく、水にほとんど溶けない。
 光により徐々に退色し、分解する。
 結晶多形が認められる。

**【 取扱い上の注意 】

安定性試験

加速試験 (40°C、相対湿度 75%、6 ヶ月) の結果、エパルレスタット錠 50mg 「TCK」 は通常の市場流通下において 3 年間安定であることが推測された。³⁾

**【 包装 】

100 錠 (PTP)

【 主要文献 】

- 1) 辰巳化学株式会社：生物学的同等性試験
- 2) 辰巳化学株式会社：溶出試験
- 3) 辰巳化学株式会社：安定性試験

【 文献請求先 】

主要文献に記載の社内資料につきましては下記にご請求下さい。
 辰巳化学株式会社 薬事・学術課
 〒 921-8164 金沢市久安 3 丁目 406 番地
 TEL 076-247-2132
 FAX 076-247-5740



製造販売元
辰巳化学株式会社
 金沢市久安 3 丁目 406 番地